

タブレットを活用し、ALTへ因北中学校の校則を紹介する言語活動  
(New Horizon English Course 2 Unit 4 Homestay in the United States)

①話・発

①書く

②一斉

③タブ

③Web カメ

【ここがポイント！】

「一人一台端末を活用したスピーチ動画と相互評価」

Unit 4 Homestay in the United States

このユニットで、生徒は助動詞 have to, must, 動名詞を学ぶ。課題設定を「ALTに因北中学校の校則について、分かりやすく説明すること」とし、授業で因北中学校の校則を整理し、英語で説明する内容を考えた後、課題としてタブレットで校則を説明するスピーチ動画を作成し、Classroomに提出させる取組を行う。動画はループリックに基づいて作成し、その後、授業でお互いのスピーチ動画を評価し合う活動を実施する。

【実践の目標】

因北中学校の校則について、ALTの先生に分かりやすく紹介することができる（本ユニットでは、生徒同士で動画やスピーチの評価を行う）。

【実際の場面】

1. 課題を設定する

ALTのOscar先生から「日本の中学校の校則はどのようなものがあるのか教えて欲しい」という内容のビデオレターが届き、生徒はhave toやmustを使って、分かりやすく伝えるために、どうすればよいかを考えた。分からない表現や語句は、タブレットを活用して調べ、言語活動に活かした。

2. 課題としてスピーチ動画を作成する

Oscar先生に紹介したい校則について、タブレットを持ち帰らせ、家庭学習としてスピーチ動画を作成させた。作成した動画はClassroomに提出させた。



3. お互いのスピーチ動画を評価し合う

Classroomに提出したスピーチ動画をグループで見合い、ループリックをもとにお互いに評価し合った。また、動画を見た後の感想等も英語で伝える言語活動を行った。

4. 動画の評価をふまえたスピーチ発表をする

ループリックに基づいてスピーチの練習をし、動画と同様にスピーチもグループ内で評価し合った。また、オーディエンスとしてのスピーチを聞く態度も自己評価させた。

5. モデルスピーチ動画を見て、よりよいスピーチについて考えさせる。

モデルスピーチの動画を見て、自分たちのスピーチとどこが違うのかを考えさせた。この動画をClassroom内に貼り付けることで、生徒たちは何度も動画を見返し、よりよいスピーチについて考え、練習することができた。

6. スピーチを改善し、スピーチを撮影する。その動画を評価する。

自分で改善点を見つけ、よりよいスピーチ動画を撮影し、Classroomに提出させた。提出動画は教員がループリックに基づき評価し、返却した。

【成果と課題】

【成果】

- 動画を撮影することで、生徒は何度も練習・撮影を繰り返した。そのことにより、言語活動の質及び量が向上した。
- 自分のスピーチ動画を何度も見ることで、自分の良い点や課題が分かり、客観的に自分を見ることができた。
- 何度も動画を見ることができ、個に応じた指導をすることができた。

【課題】

- 家庭で最初に撮影したスピーチ動画が最もよかったと言う生徒もいた。クラス内の撮影だと、緊張したり周りの目が気になったりして、力が発揮できない傾向があった。どのような状況であっても、相手に分かりやすく、自分の意見や考えを伝える力を育てていく必要がある。

尾道市立因北中学校

Presentation Scoring Rubric

	Verbal Delivery <small>voice, speed, volume</small>	Memorizing	Non-verbal Delivery <small>posture, eye contact</small>
3	聴き手が話し手の内容を聞き取りやすいように、適切な声量・スピード・抑揚で話している。	内容をよく覚えて話している。	話し手の姿勢・視線が話し手に向いている。
2	話し手が話し手の内容を聞き取りやすいように、適切な声量・スピード・抑揚で話している。	内容を覚えて話している。	話し手の姿勢・視線が話し手に向いている。
1	話し手が話し手の内容を聞き取りやすいように、適切な声量・スピード・抑揚で話している。	内容を覚えて話している。	話し手の姿勢・視線が話し手に向いている。
0	話し手が話し手の内容を聞き取りやすいように、適切な声量・スピード・抑揚で話している。	内容を覚えて話している。	話し手の姿勢・視線が話し手に向いている。

